

毎週日曜発行
2023 1/29

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

長井市には、15日のこども新聞一面で紹介したけん玉の達人、秋元けん玉研究所所長の秋元悟さんだけでなく、けん玉で世界一になったすご腕の外国人がいるんだ。アメリカ出身のニック・ギャラガーさん(22)。昨年11月に長井市の地域おこし協力隊に就任したよ。

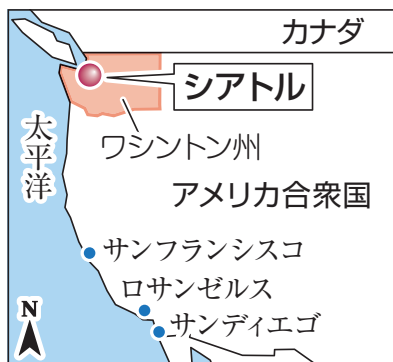
ニック・ギャラガーさん(22)

アメリカ出身 / 長井市けん玉体験施設「SPIKE」管理人

ギャラガーさんは、市のけん玉体験施設「SPIKE」(スパイク)の管理人をしています。「子どもたちや市民が集まり、練習に励みます。日本けん玉協会の5段を持つ将来有望な玉に出会いました。最初



シアトルで生まれ育ち、中学1年のとき、学校の先輩の紹介で、けん玉に出会いました。最初



けん玉の魅力世界に発信

「双子の弟ザックはけん玉ライバルでもあり親友。彼はスペインでけん玉の道に進もうとしています」と話すギャラガーさん



の印象は、正直「ダサい」。でも周りの友達が一斉に始め、その流れに乗りました。

玉メーカーとプロ契約、国内大会で優勝を重ねました。実力を付け、2018年にワールドカップ(広島県廿日市市)で優勝を果たしました。



「玉を大皿に乗せるまで15分。みんながすぐできる技でも、自分は時間がかかった」と笑います。その分、技が成功するとうれしくて夢中になった。双子の弟ザックさんと競い合って新技に挑戦し、家でも学校でも時間があれば練習しました。

来日のきっかけは、大卒卒業の前年に届いた一通のメールです。「けん玉に関する仕事をしないか」という長井市からの誘いでした。以前短期留学した日本の生活が

楽しく、いつか住みたいと思っていたギャラガーさんにとって、魅力的な話。卒業後すぐに移住しました。

日本語は、多くのけん玉友達と交流するため、独学で習得していました。「けん玉のおかげで、人生の道が開けた。みんなも何かを始めたら中途半端にせず、挑戦し続けて」と、子どもたちにエールを送ります。

夢は、けん玉で世界をつなぐこと。「誰でもどこでもできる。外ですると気持ちいいよ」。けん玉の面白さを、長井から発信し続けます。

けん玉は、ストリートスポーツとして世界中で人気なんだって。みんなも「大皿」「回し剣」からやってみよう。



動画は河北新報オンラインで

今週の注目ニュース

◇31日(火) アロハの日
フラダンスなどで地域を盛り上げる、いわき市の観光関係団体が制定したよ。ハワイのあいさつ「アロハ」を表すハンドサイン、親指と小指を立てほかを折り曲げる形「1・3・1」に由来しているんだって。

きょうの紙面

- 2面 ニコ☆プチ
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7・8面 投稿特集

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ